

[ 横浜市大佛次郎記念館 ]  
令和 6 年度業務報告及び収支決算  
[公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

250331 現在

1 施設の概要

施 設 名	横浜市大佛次郎記念館
所 在 地	横浜市中区山下町 113
構 造 ・ 規 模	鉄筋コンクリート造地上 2 階地下 2 階建
敷 地 ・ 延 床 面 積	延床面積 1,108.39 m <sup>2</sup> (本館 : 709.64 m <sup>2</sup> 、新館 : 398.75 m <sup>2</sup> )
開 館 日	昭和 53 年 5 月 1 日

2 指定管理者

法 人 名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所 在 地	横浜市中区山下町 2
代 表 者	理事長 近藤 誠一
設 立 年 月 日	平成 3 年 7 月 10 日
指 定 期 間	令和 4 年 4 月 1 日から令和 9 年 3 月 31 日まで
現 指 定 管 理 者 の 管理運営開始日	平成 28 年 4 月 1 日 (昭和 53 年 財団法人大佛次郎記念会管理運営開始)

3 指定管理に係る業務方針 指定管理業務実施にあたっての方針

(1) 基本的な方針の総括

令和 6 年度は本指定期間で新たに提案した所蔵資料のデジタルアーカイブ構築・活用を前進させました。テーマ展示 I 「ポール・ルヌアール没後 100 年」において、令和 4 年度の資料整理期間でデジタルデータ化した画像を先行公開し、10 月には当館ホームページから新デジタルアーカイブを活用した所蔵資料検索システムをオープンさせました。今後は着実にデータを充実させ、市民に記念館の活動を知つていただく機会を広げるとともに、調査研究をすすめる基幹とします。また令和 5 年度の新刊「南方ノート・戦後日記」(未知谷刊／大佛次郎記念館編) 刊行のために休刊していた「おさらぎ選書」を 4 年ぶりに刊行しました。

管理面では老朽化に対応した建物・設備の更新工事を所管局と協力しながら着実に実施するとともに、不具合やトラブルに対応した小破修繕を着実にすすめました。また物価高騰の傾向など収支の状況を見ながら運営を行い、安定した運営を行いました。

(2) 令和 6 年度の業務の方針の総括

ア 全体について

令和 6 年度は特に、使命 1 、調査研究において成果が見られた 1 年でした。所蔵資料の一元

管理を目的に進めてきた新デジタルアーカイブの公開と運用は、ポール・ルヌアール版画の画像群約 300 点のうち約 260 点を令和 6 年度最初のテーマ展示 I 「ポール・ルヌアール没後 100 年 大佛次郎版画コレクション」展に先立って WEB 上で公開しました。また 10 月には大佛次郎記念館ホームページから、新デジタルアーカイブを活用した所蔵データ検索ページをオープンし、約 300 点の画像を含む 3062 件のデータを公開しました。また特別資料整理期間を活用して、紙資料の洋新聞目録（ル・タン）のデジタル化、カリカチュアコレクション画像を撮影し、画像データとして保存しました。また令和 2 年度以来の刊行となる「おさらぎ選書」第 29 集を刊行しました。

管理運営面では休館をともなうティールームと渡り廊下の建具更新、書庫除湿機の更新など、横浜市と協力して修繕を実施し、快適な施設環境を確保しました。

#### イ 使命 1 大佛次郎に関する調査・研究を深める

- ・ 令和 6 年 10 月に新デジタルアーカイブによる所蔵資料検索ページを公開し、画像データ約 300 件を含む 3062 件を公開しました。
- ・ 特別資料整理期間（令和 6 年 8 月 19 日～30 日）を活用し、資料のデジタル化（洋新聞ル・タン、カリカチュアの撮影・デジタル化）を行いました。

#### ウ 使命 2 大佛次郎の業績を広く普及する

- ・ 年 3 回のテーマ展示は「大佛次郎を知らない人が見ても楽しめるもの」「作品を掘り下げ、検証するもの」「他館と共同して実施するもの」と、工夫をもって行いました。
- ・ おさらぎ選書第 29 集「大佛次郎没後五十年記念論集」を刊行しました。
- ・ 神奈川善意通訳者の会例会（7/17）、横浜キネマ俱楽部第 80 回上映会「鞍馬天狗大江戸異変」（9/21）において、当館研究員による大佛次郎に関する講演会を実施しました。

#### エ 使命 3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

- ・ ビブリオバトルシリーズは、ミニビブリオバトル（小学 4 ～ 6 年生）、中高生ビブリオバトルの他、大人を対象としたビブリオバトルを実施し、全世代が参加できるようにしました。
- ・ 横浜市教育委員会主催で図書教諭を対象とした「横浜市図書館研究会夏季総合研修分科会」に研修講師として招かれ、学校図書館活用の手引きをもとに「情報活用一覧から見るビブリオバトル」についての解説と、舞台上でのビブリオバトル体験を実施し、学校活動の中で活用いただける実践的な研修を実施しました。
- ・ 港南区の地区センターで開催したビブリオバトルについても助言を求められるなど、読書推進活動として新たな展開がありました。
- ・ 横浜シティガイド協会との共催により、鞍馬天狗の舞台となった横浜の場所を巡るミニ講座とガイドツアーを実施しました。ティールーム霧笛でコーヒーとチーズケーキをいただきながらの講座は好評を博し、2 回のツアーは満席となりました。

#### オ 使命 4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

- ・ 利用者意見交換会を ZOOM で開催し、句会・書道・朗読会の活動を行う 3 団体にご参加いただき、ご意見を頂戴しました。
- ・ 和室は句会やお茶会などの参加者から新規利用が入り、目標利用率を上回りました。会議室は例年利用している長期利用がなく目標利用率に届きませんでした。

#### カ 使命 5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

- ・ テーマ展示 III 「大佛次郎と山口蓬春」展では、葉山の山口蓬春記念館と企画段階から連携を進めました。両館の所蔵資料を活用し、同時期に同タイトルで各館の専門を生かした展示を開催しました。展示期間中に、両館を巡るスタンプラリーや両館の担当者が相手の館で講座を行うなど、両館開催ならではの工夫もを行い、来場につなげました。
- ・ テーマ展示 II 「鞍馬天狗誕生 100 年」展では、1F ロビーで特定非営利活動法人山手アーバンアートプロジェクトによるアート展示を行いました。

カイブス主催により、鞍馬天狗が活躍した時代の横浜の古地図を展示しました。単なる場所提供にとどまらず、双方のアイデアを活かした展示となりました。

- ・夜の横浜イルミネーション「ヨルノヨ」のデジタルスタンプラリー「横浜出身の作家の名作にトリップ！」において大佛次郎「幻燈」の世界を巡る内容のシナリオのチェックや画像提供等、横浜観光事業への協力を进行了

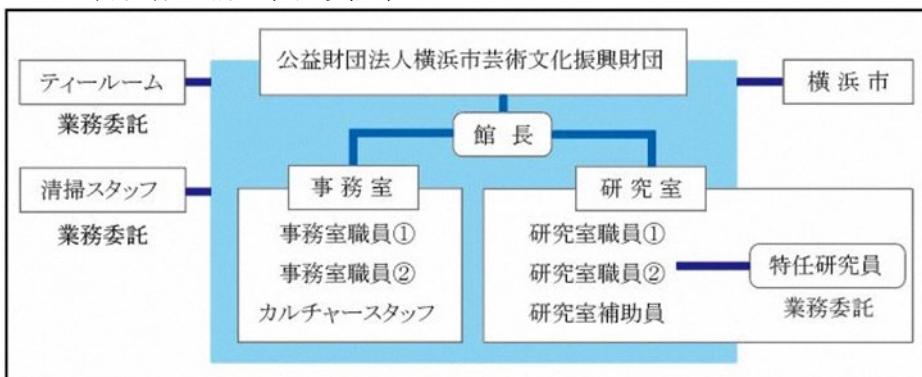
キ 使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

- ・8月19日～8月30日の資料整理期間を活用したティールーム建具更新、1月に臨時休館日を設けて実施した渡り廊下の建具更新と、横浜市実施の修繕工事を協力して実施しました。
- ・空調設備の老朽化に伴うトラブルに速やかに対応するなど、来場者の快適性を保ちました

ク 使命7 新型コロナウイルス感染症の影響を想定し、施設運営を継続する

- ・消毒液設置、受付アクリル板の設置、スタッフのマスク着用を継続しました。

#### 4 運営組織の構造、人員配置



組織図のとおり職員、臨時職員を配置し、カルチャースタッフは常時1名配置しました。

5 使命の指標の達成状況と重点取り組み事項  
 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

(1) 使命 1 大佛次郎に関する調査・研究を深める  
 ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	研究成果物の発表回数	刊行物 編集	刊行物 1 冊	刊行物 1 冊	刊行物 1 冊	—	刊行物 累計 3 冊	—
2 ★	資料調査の対象カテゴリーの 数	2 カテ ゴリー	—	新 DB 移 行のた め現行 シス テムへは 追加無	新 DB 移 行のた め現行 シス テムへは 追加無	—	5 カテ ゴリー / 5 年	—
3 ★	温湿度点検と 保存環境点検 の回数、特別 資料整理の期 間	温湿度点検	2 回/ 日	2 回/ 日	2 回/ 日	—	2 回/ 1 日	—
		保存環境点検	1 日/ 1 か月	1 日/ 1 か月	1 日/ 1 か月	—	1 日/ 1 か月	—
		特別資料整理 の期間	1 週間 / 年	出版のた め期間設 けず	出版のた め期間設 けず	—	1 週間 / 年	—
4 ★	特別資料調査期間の結果を、 新デジタルアーカイブに流し 込む点数	準備	準備	301	51	—	130 点 (猫コ レクシ ョン)	—

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績		
1	収蔵作品の状況把握	R 4 実績	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認実施	
		R 5 達成指標	特別資料調査期間及び日常的な資料の状態確認	
		R 5 実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• R5 は没後 50 年のため特別資料整理期間は設けず。</li> <li>• ポール・ルヌアール版画 6 点の修復実施</li> <li>• 日常的な資料の状態確認実施。</li> </ul>	
		R 6 実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 長谷川路可《浜風・冬》軸 軸壯修復</li> <li>• 資料整理期間（ル・タン目録およびカリカチュア画像のデジタル化）実施</li> <li>• 日常的な資料の状態確認実施</li> </ul>	
		R 7 実績	—	
		R 8 達成指標	優先度に応じた資料修復	
		R 8 実績	—	
2	研究成果物の読者の 声	R 4 実績	刊行に向けた準備	
		R 5 達成指標	『日記』刊行時WEBアンケート実施	
		R 5 実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 記念館販売分は書籍に差込の WEB アンケートの実施</li> <li>• 出版社販売分は読者カードの差込</li> </ul>	

		R 6 実績	・記念館販売分は書籍に差込の WEB アンケートの実施 ・出版社販売分は読者カードの差込
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	WEB アンケート検証
		R 8 実績	—
3 ★	新デジタルアーカイブの HP での閲覧・検索機能の構築	R 4 実績	新デジタルアーカイブデータ移行準備
		R 5 達成指標	新デジタルアーカイブに画像データを加える
		R 5 実績	画像データ 301 件追加 (非公開分含む)
		R 6 実績	・テーマ展示 I でのルヌアール画像の先行公開 ・HP での新検索システム公開
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	HP で閲覧・検索ができる
		R 8 実績	—

#### ウ 使命 1 を達成するために重点的に取り組んだ事項

新デジタルアーカイブを活用した所蔵品検索システムを整備し、10月に当館ホームページから公開しました。今後は日常的な作業と年1回の特別資料整理期間を活用して、着実にデータの充実を行います。

#### エ 使命 1 の令和 6 年度実績、成果及び課題

項目	実績 (アウトプット)	成果 (アウトカム)	課題
資料の保存、管理 収集、修復	・所蔵品 長谷川路可《浜風》軸の修復実施	・テーマ展示Ⅲの同時期に開催した山口蓬春記念館主催の「大佛次郎と山口蓬春」展への貸し出し	・限られた予算内での修復のため、優先順位をつけながら厳選しての実施となっている
新デジタルアーカイブ公開と運用	・ル・タン目録データ化およびカリカチュア画像をデジタル撮影し、デジタルデータで保存 ・画像310件を含む3062件のデータを新デジタルアーカイブにて公開	・新規のデータの公開は、大佛次郎研究だけではなくルヌアール及び林忠正、木村荘八研究にも寄与	・全データの公開までにはまだ時間がかかるため、カテゴリー等を検討しながら今後も優先順位付けての実施が必要
調査・研究成果の発信と公開	・おさらぎ選書第 29 集の発行	・調査・研究の成果を形に残し、広く発信	・他の業務や執筆者間での発行時期の調整が課題

#### (2) 使命 2 大佛次郎の業績を広く普及する

ア 定量指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	自主事業の来館者数 (観覧者数)	15,656	没後50年 21,000 人/年	18,432	14,959	—	18,500 人/年	—

2	来館者（参加者）の満足度（アンケート調査）／5点満点	4.7	満足度平均 4.4以上	4.7	4.5		満足度平均 4.4以上	
3 ★	レファレンス内容をWEBで紹介する件数	3件/年	3件/年	3件/年	3件/年		3件/年	
4 ★	既存データを引き継ぎ、新デジタルアーカイブで公開するカテゴリーの数（2023年～）	準備	—	準備	3件/年		10件/4年	

(※1) ハロウインウォークの参加者の受付場所を館外に変更したため入館者数から除外。ハロウインウォーク参加者2,324名を含めた人数は、17,283名。

#### イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績						
1	来館者の声	R 4 実績	聞き取りアンケートの実施準備					
		R 5 達成指標	聞き取りアンケートの実施					
		R 5 実績	聞き取りアンケートの実施（3/7～3/16）					
		R 6 実績	聞き取りアンケート結果の検討（※1）					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	来館者の声の反映					
		R 8 実績	—					
2 ★	大佛次郎の今日的意義を作品や生き方を現代の視点から捉え直し文学館活動を通じて伝える（提案書様式9、2ページより抜粋）	R 4 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える					
		R 5 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える					
		R 5 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える					
		R 6 実績	展示やSNSを通して、大佛次郎の今日的意義を伝える					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	来館者やHP来訪者に、大佛次郎の今日的意義を伝える					
		R 8 実績	—					

(※1) R7年度のテーマ展示の実施内容について検討

#### ウ 使命2を達成するために重点的に取り組んだ事項

令和6年度の特別展示およびテーマ展示は、様々な切り口で作家と作品を紹介し、成果を得ました。多くの人々の関心を高めご来館いただけるものとともに、文学館として調査・研究成果を発信できる展示の両面から展示を企画していきます。

今後、2025年「野尻抱影生誕140年」、2028年開館50周年と記念の年が続きます。令和5年度の経験からも記念年は発信の好機となるため、多彩な角度から展示を検討していきます。

## エ 使命2の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
テーマ展示1 ・「ポール・ルヌアール没後100年 大佛次郎版画コレクション 一小さきものへのまなざし」	・デジタルアーカイブを活用してルヌアール作品画像を先行してホームページで公開	・当館の資料を外部資料と絡め、新事実の発見を展示に生かせた	・今回初めて大佛次郎コレクションが林忠正の弟である長崎千里ゆかりの作品であることが裏付けられたが、入手過程を含めて美術史、日仏交流史等の大きな枠組みの中に位置づけることが必要
テーマ展示2 ・「鞍馬天狗誕生100年ヒーロー、100年の歩み」	・外部連携を通じて映画上映会や講演、横浜を舞台とした作品をたどるガイドツアー等を開催 ・地元の団体（山手アーカイブス）主催で鞍馬天狗が活躍した時代の横浜の古地図を展示	・「大佛次郎」や「鞍馬天狗」のファンに限らず、広い層にアプローチできた。 ・「鞍馬天狗」をフックに地元の団体と連携できた	・若い世代や女性へのアプローチの仕方についてはまだ工夫の余地がある
テーマ展示3 ・「大佛次郎と山口蓬春—作家と画家、重なるまなざし」	・山口蓬春記念館と連携による同時期に同タイトルでの展示実施 ・両館でのスタンプラリーの実施	・両館の所蔵資料活用による展示内容の拡充 ・県内類似施設との連携強化 ・スタンプラリーによる相互集客	・美術資料については設備面で借用できる資料に制限がある

### (3) 使命3 幅広い市民等が文学に関する文化に触れる機会を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	各種文化事業の実施回数	22回/年	16回/年	42	17	—	17回/年	—
2	来館者（参加者）の満足度／5点満点	4.2	満足度平均4.5以上	4.1	4.6	—	満足度平均4.5以上	—
3 ★	新規イベント実施回数	3回	—	4回	0回	—	累計5回以上	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績			
1	来館者（参加者）の声	R 4 実績	聞き取り調査の実施に向けた準備		
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施		
		R 5 実績	聞き取り調査の実施（3/7～3/16）		
		R 6 実績	聞き取り調査結果の検討（※1）		

		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	聞き取り調査内容の反映
		R 8 実績	—
2 ★	継続事業の工夫	R 4 実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2023」は、近隣ねこ展示関係と連携し、“猫聖地めぐり”を案内
		R 5 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 5 実績	「大佛次郎×ねこ写真展 2024」は、ミナトノアート実行委員会との共催で「ミナトノネコ@大佛次郎記念館」を実施
		R 6 実績	各テーマ展示関連事業等による、他団体・他館連携による効果を生みました。
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	継続事業は、リピーターにも目新しく映るよう、内容や手法に新たな工夫を加える
		R 8 実績	—

(※1) 「ねこ写真展」については今後も継続していきたい。

#### ウ 使命3を達成するために重点的に取り組んだ事項

「大佛次郎×ねこ写真展」は、長年の実施が定着し、応募点数が昨年度と比較して100点以上増加しました。横浜シティガイド協会との連携によるガイドツアーなど、テーマ展示に関連させて実施した事業が好評でした。令和5年度に実施した没後50年記念事業で得られた連携を活かして、他団体との意見交換等を活かし、特にガイドツアーではティールーム霧笛をトーク会場としたことで幅広い市民が参加できる事業をすすめることができました。

#### エ 使命3の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
ビブリオバトルシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・和装 de ビブリオバトル</li> <li>・中高生ビブリオバトル</li> <li>・ミニビブリオバトル</li> <li>・デモ・ビブリオバトル</li> <li>・複数の地区センターへの助言</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニビブリオバトルでの参加者が中高生ビブリオバトルでも参加するなど満足度の高いイベントとなっている。</li> <li>・横浜市教育委員会主催で図書教諭を対象とした「横浜市図書館研究会夏季総合研修分科会」に、研修講師として招かれた。</li> <li>・地区センターで子ども対象のビブリオバトル実現（裾野の広がり）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加校が固定化する傾向にある</li> </ul>
「大佛次郎×ねこ写真展」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大佛次郎×ねこ写真展 2025」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・応募数 482 点（昨年より約120点増加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示場所に限りがあるため応募数が多くなると展示環境に工夫が必要となる</li> </ul>

#### (4) 使命4 市民に文化を中心とした活動の場を提供する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目		R 4 実績	R 5 達成 指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成 指標	R 8 実績
1	貸館利用率	和室	28.3%	24%	26%	33%	—	30%	—
		会議室	43.4%	33%	42%	40%	—	42%	—
2 ★	入館者数		18,279 人/年	25,000 人/年	22,384 人/年	19,562 人/年 (※1)	—	22,500 人/年	—
3 ★	撮影利用件数		23件/年	10件 以上/ 年	9件/年	5件/年	—	10件 以上/ 年	—
4 ★	WE B来訪者数		278,054	300, 000件 以上/ 年	286,655	162,108 (※2)	—	300,00 0件以 上/年	—

(※1) ハロウインウォークの参加者の受付場所を館外に変更したため入館者数から除外。ハロウインウォーク参加者2,324名を含めた人数は、21,886名。

(※2) 令和6年1月にサーバーが変わり、集計方法が変更となったため。

イ 定性指標 (★は提案者が提案した指標) (実績は各年度終了後に記載)

通番	項目	達成指標と各年度の実績	
1	利用者との意見交換等による現状把握	R 4 実績	意見交換会開催にむけた準備
		R 5 達成指標	意見交換会開催
		R 5 実績	意見交換会の準備および日程調整の実施
		R 6 実績	リモートによる意見交換会実施
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	意見の検証と反映
		R 8 実績	—
2 ★	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す	R 4 実績	掲示板設置のための調査
		R 5 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 5 実績	施設利用者のためのチラシラックを設置し、情報共有を促した
		R 6 実績	チラシラックの運用
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	施設利用団体同士の交流を生み出すため、掲示板等を設置し、情報共有を促す
		R 8 実績	—
3 ★	施設の活用方法の提案	R 4 実績	施設利用例をブログやSNSで紹介
		R 5 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HPやSNS投稿等により情報発信されている
		R 5 実績	施設利用例をブログで紹介(3件)
		R 6 実績	施設利用事例をブログで紹介(3件)
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	利用者の声や、施設利用例が、HPやSNS投稿等により情報発信されている

		R 8 実績	—
--	--	--------	---

#### ウ 使命4を達成するために重点的に取り組んだ事項

利用者による意見交換会をリモートで開催しました。施設環境が清潔で快適、建物に風情がある、申し込み方法が他施設よりも分かりやすい、という意見のほか、搬入経路が不便、会議室の椅子が重厚すぎてレイアウト変更がしづらい、和室で使える椅子が欲しい、トイレの便座が冷たいなどの、具体的な感想や意見を多数いただきました。提案最終年に向けて、意見の運営への反映を検討したい。

会議室、和室の利用は、和室は利用事例をブログで紹介したり、春・秋の一般公開により新規利用を獲得し、利用率が上がりましたが、会議室は例年利用している長期利用の利用がなく、前年より利用率が減少しました。ブログ等でさまざまな利用事例を紹介するなど、利用促進を継続します。

#### エ 使命4の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
利用促進・サービスの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者との意見交換会の実施</li> <li>・利用事例をブログ・SNSで紹介</li> <li>・和室公開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の利便性向上のための具体的な意見の集約</li> <li>・利用事例の紹介や、春・秋の和室公開により和室利用の周知ができ、新規利用につながった</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な意見の実現には予算の確保や保管場所の確保が課題</li> <li>・今後も地道な周知活動が必要</li> <li>・リピーターの定着の促進</li> </ul>

#### (5) 使命5 文学を媒介としたネットワーク構築を推進する

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	地域の施設・団体と連携して実施した事業数	新規連携事業 6件	新規連携累計 3件	新規連携事業 25件	新規連携事業 1件	—	新規連携累計 7件	—
2 ★	連携する団体数の増	4団体 /年	1件以上/年	5団体 /年	3団体 /年	—	1件以上/年	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績			
1	連携したことによる関係者の声	R 4 実績	連携先との意見交換		
		R 5 達成指標	聞き取り調査の実施		
		R 5 実績	連携先アンケートの実施		
		R 6 実績	連携先との連携事業における意見交換（※1）		
		R 7 実績	—		
		R 8 達成指標	聞き取り調査の反映		
		R 8 実績	—		
2	他の文学館との意見交換等	R 4 実績	全国文学館協議会会員間の情報共有		
		R 5 達成指標	全国文学館協議会共同討議参加		

	による現状把握	R 5 実績	神奈川近代文学館との情報交換
		R 6 実績	全国文学館協議会総会参加 全国文学館協議会共同討議参加
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	他館の事例を検討し運営に反映
		R 8 実績	—
★ 3	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている	R 4 実績	記念ボランティアの事業運営への参加
		R 5 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 5 実績	事業に関するヒアリング、事業運営への参加
		R 6 実績	記念館ボランティアの事業運営への参加
		R 7 実績	—
		R 8 達成指標	記念館ボランティアを継続して運営し、事業や運営に市民参加が行われている
		R 8 実績	—

(※1) ガイドツアーのトーク実施場所や映画上映会における上映作品の選定など、連携事業内容のブラッシュアップにつながりました。

#### ウ 使命5を達成するために重点的に取り組んだ事項

令和5年度の大佛次郎没後50年記念事業では、各方面とのネットワークを得ました。令和6年度も引き続きこれらの連携を生かした事業を実施しました。令和7年度は「野尻抱影生誕140年」にあたり、また新たに天文関係の博物館や団体との関係を構築しており、使命5達成に向け着実に前進しています。今後も文学館として文学を媒介にネットワーク形成につとめています。

#### エ 使命5の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茅野市八ヶ岳総合博物館</li> <li>・神奈川近代美術館 葉山館</li> <li>・横浜キネマ俱楽部</li> <li>・横浜シティガイド協会</li> <li>・横浜山手アーカイブス</li> <li>・山口蓬春記念館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな団体との連携やネットワーク形成を通じて大佛次郎研究においてもさまざまな分野で新たな情報を入手することができた</li> <li>・R7年度の展示につながる成果や連携の基盤ができた</li> </ul>	・ネットワークの継続・維持

#### （6）使命6 持続可能性を高める施設運営を行う

ア 定量指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	R 4 実績	R 5 達成指標	R 5 実績	R 6 実績	R 7 実績	R 8 達成指標	R 8 実績
1	施設の管理瑕疵に起因する事故件数	0件	0件	0件	0件	—	0件	—
2	法定点検等の実施率	100%	100%	100%	100%	—	100%	—

3	修繕予算の執行率	97%	90%	269%	123%	—	90%	—
4 ★	施設の快適度についてのアンケート調査結果／5点満点	4.6	平均 4.0以上	4.2	4.6	—	平均 4.0以上	—
5 ★	施設内外の巡回点検回数	2回／日	2回／日	2回／日	2回／日	—	2回／日	—

イ 定性指標（★は提案者が提案した指標）（実績は各年度終了後に記載）

通番	項目	達成指標と各年度の実績						
1	施設の使いやすさや快適さについてのヒアリング	R 4 実績	利用時に意見を伺う					
		R 5 達成指標	ヒアリングを実施					
		R 5 実績	ヒアリングを実施（3/7～16）					
		R 6 実績	ヒアリング結果の検討（※1）					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	ヒアリングを反映した運営					
		R 8 実績	—					
2 ★	管理運営費水準の要因分析	R 4 実績	年数回の分析と調整					
		R 5 達成指標	年数回の細やかな分析					
		R 5 実績	年5回の分析と調整					
		R 6 実績	年3回の分析と調整					
		R 7 実績	—					
		R 8 達成指標	分析の継続					
		R 8 実績	—					

（※1）施設の使いやすさや快適性については、ほぼ好意的な意見だったと認識しており、それを維持できるよう、小破修繕や市修繕への協力に注力しました。

#### ウ 使命6を達成するために重点的に取り組んだ事項

- 法令等にのっとった施設の保守・点検等を着実に行い、安全安心を確保しました。点検結果は市に報告し、不具合には早期に対応しました。
- 新型コロナウイルスの影響が回復し、利用率・利用人数が上がることで、老朽化による設備不具合が現れています。所管局と連携し、設備の状態をしっかりと把握し、予防的措置、早期修繕を行います

#### エ 使命6の令和6年度実績、成果及び課題

項目	実績（アウトプット）	成果（アウトカム）	課題
持続可能性を高める施設運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係法令に沿った保守・点検の実施</li> <li>不具合箇所について、所管課とタイムリーな情報共有</li> <li>スタッフへの各種研修の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>施設の管理瑕疵に起因する事故0件</li> <li>施設不具合箇所（カフェ窓枠、渡り廊下、除湿器）の早期修繕実施</li> </ul>	・施設の老朽化による設備不具合の発生（空調等）

#### オ 令和6年度の収支

収入については利用料金、ショップ収入は目標を達成することができませんでしたが、テーマ展示Iの入場者数が目標を上回り、約50万円の黒字となりました。支出については日常的に節約に努めたほか、備品購入や図書購入を先送りして作品修復をする等、優先度を見極めながら執行しました。全体としては、収支差額はほぼ0に近い数字となりましたが、すでに支出の見直しも限界にきており、令和7年度以降は余裕のない厳しい運営状況が予想されることが課題です。

(指定管理者が記入する様式)

## 令和6年度 「大佛次郎記念館」 収支決算書

## 収入の部

(税込、単位：円)

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
指定管理料	54,491,374		54,491,374	54,667,975	△ 176,601	横浜市より
利用料金収入	1,000,000		1,000,000	913,100	86,900	和室会議室利用料金収入
自主事業収入	1,960,000		1,960,000	2,660,784	△ 700,784	コレクション展収入・事業収入
雑入	3,002,000	0	3,002,000	2,681,646	320,354	
協賛金・助成金・負担金・寄附金	93,000		93,000	157,000	△ 64,000	
ショップ収入	1,700,000		1,700,000	1,435,443	264,557	
商用撮影・特別利用料	139,000		139,000	38,720	100,280	
ティールーム霧笛設備使用料	1,070,000		1,070,000	1,020,728	49,272	
その他雑収入(ゴミ処理・複)	0		0	29,755	△ 29,755	
収入合計	60,453,374	0	60,453,374	60,923,505	△ 499,886	

## 支出の部

科目	当初予算額 (A)	補正額 (B)	予算現額 (C=A+B)	決算額 (D)	差引 (C-D)	説明
人件費	40,824,000	0	40,824,000	42,343,081	△ 1,519,081	人事異動による変動
給与・賃金	33,467,000		33,467,000	33,943,364	△ 476,364	カルチャースタッフと特任研究員の人件費を含む
社会保険料	4,684,000		4,684,000	4,910,383	△ 226,383	
通勤手当	1,408,000		1,408,000	1,480,368	△ 72,368	
健康診断費	27,000		27,000	27,716	△ 716	
労働者福祉共済掛金	18,000		18,000	24,000	△ 6,000	
退職給付引当金繰入額	1,220,000		1,220,000	1,957,250	△ 737,250	
事務費	2,996,374	0	2,996,374	3,108,697	△ 112,323	
旅費	10,000		10,000	38,664	△ 28,664	
消耗品費	180,374		180,374	376,502	△ 196,128	
会議賄い費	10,000		10,000	6,740	3,260	雑支出（その他）
印刷製本費	245,000		245,000	276,025	△ 31,025	施設広告宣伝費・WEB運営費含む
通信費	510,000		510,000	502,202	7,798	通信運搬費
使用料及び賃借料	1,228,000	0	1,228,000	1,205,262	22,738	
横浜市への支払分	848,000		848,000	829,384	18,616	目的外利用料
その他	380,000		380,000	375,878	4,122	コピー等OA機器賃借料
備品購入費	150,000		150,000	0	150,000	
図書購入費	150,000		150,000	0	150,000	資料収集
施設賠償責任保険	55,000		55,000	54,391	609	施設賠償責任保険および動産保険
職員等研修費	5,000		5,000	0	5,000	
振込手数料	50,000		50,000	26,114	23,886	
リース料	240,000		240,000	259,233	△ 19,233	
手数料	130,000		130,000	330,564	△ 200,564	粗大ゴミ処理費
会費等	33,000		33,000	33,000	0	会費等
事業費	2,922,000	0	2,922,000	2,885,021	36,979	
自主事業費	2,922,000		2,922,000	2,885,021	36,979	
管理費	6,988,000	0	6,988,000	7,333,199	△ 345,199	
光熱水費	2,105,000	0	2,105,000	1,973,200	131,800	
電気料金	1,800,000		1,800,000	1,796,363	3,637	
ガス料金	0		0	0	0	
水道料金	305,000		305,000	176,837	128,163	
清掃費	2,700,000		2,700,000	2,699,070	930	
修繕費	900,000		900,000	1,238,283	△ 338,283	小破修繕発生と予防修繕、所蔵品修復
機械警備費	256,000		256,000	256,080	△ 80	
設備保全費	1,027,000	0	1,027,000	1,166,566	△ 139,566	
空調衛生設備保守	273,000		273,000	211,640	61,360	
消防設備保守	154,000		154,000	154,000	0	
電気設備保守	150,000		150,000	173,646	△ 23,646	
防塵・防黴作業委託費	300,000		300,000	307,780	△ 7,780	
駐車場設備保全費	0		0	0	0	
その他保全費	150,000		150,000	319,500	△ 169,500	
共益費	0		0	0	0	
公租公課	3,585,000	0	3,585,000	3,673,955	△ 88,955	
事業所税	0		0	0	0	
消費税	3,583,000		3,583,000	3,671,755	△ 88,755	
印紙税	2,000		2,000	2,200	△ 200	
その他（）	0		0	0	0	
事務経費（計算根拠を説明欄に記載）	3,138,000	0	3,138,000	3,138,000	0	
本部分	3,138,000		3,138,000	3,138,000	0	
支出合計	60,453,374	0	60,453,374	62,481,953	△ 2,028,579	
差引	0	0	0	△ 1,558,448	1,528,693	